

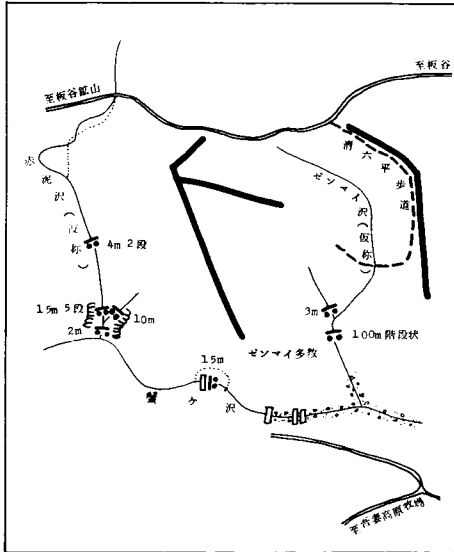
## ゼンマイ沢

(仮称・下降)

一九八〇年五月二十五日

◆天気(曇時々晴)

清六平歩道を出合まで歩いて下り始める。しばらく下った所で、右岸から三ツ木の滝となって支流が入り、この下には一〇〇メルの滝が階段状に続いていた。少し下ったが傾斜がきつくなり途中でワラジをはく。この後は滝も



ゼンマイ沢、赤泥沢 (作図: 5)

なく蟹ヶ沢本流に着く。

この沢はゼンマイが多数生えていた。ゼンマイ沢と仮称することにする。

[タイム]

清六平歩道入口一二二・一五―ゼンマイ沢一二三〇―蟹ヶ沢本流一三・四〇

## 天戸川

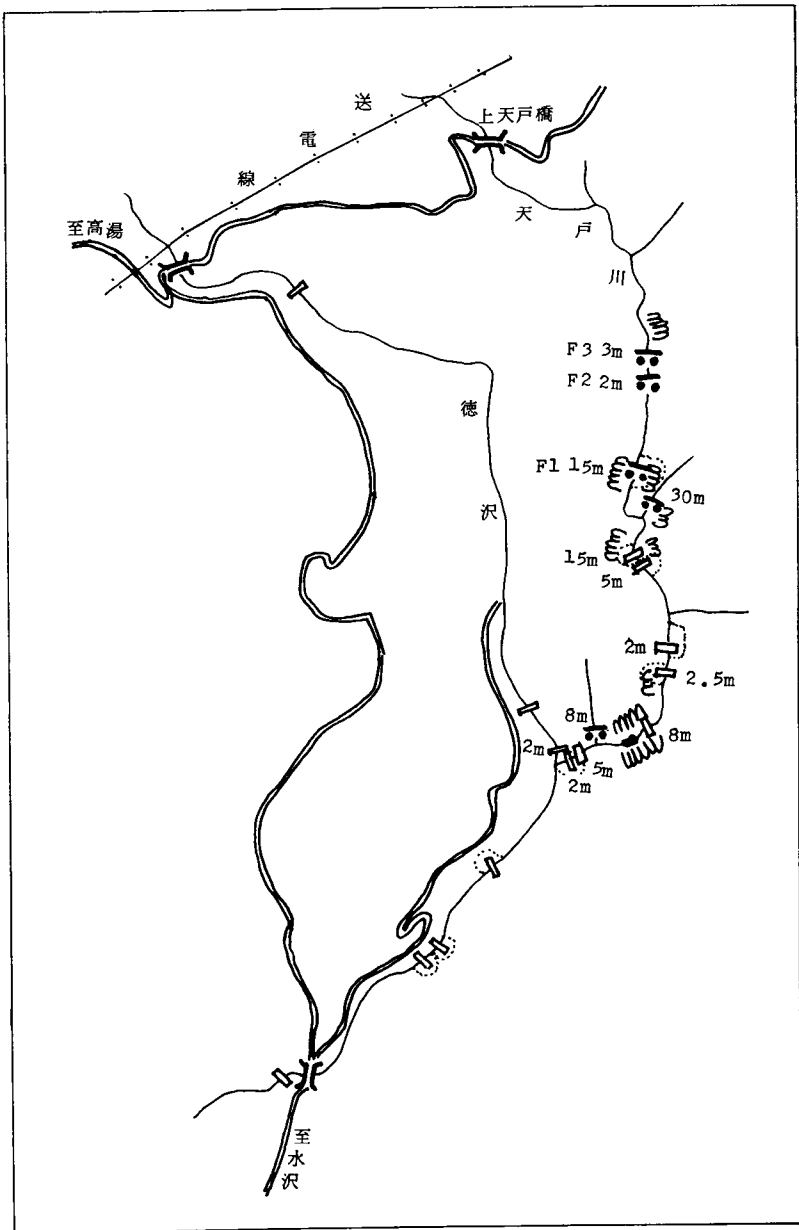
一九八〇年七月十三日

◆天気(晴)

前日の雨のため沢はかなりの増水である。林道を徳沢との二俣まで歩き、身仕度を整え遡行を始める。

砂防ダムを二つ左岸を捲いて少し歩くとゴルジュになる。まず右岸をへつり、左岸に渡ってへつる。この時喜吉君が足をすべらせて水の中へ。このゴルジュのすぐ上にも砂防八段があった。左岸を捲く。

しばらく歩くと砂防ダムが二つ続いていて、左岸ぞいに石積みのできがあった。この先にもまた砂防ダムが二つ続く。下のダム五段は左岸側にはしごがあり、上のダム



天戸川，徳沢（作図：）

三）

一五<sup>分</sup>は右岸側にはしごが付いていた。

沢がS字に曲がる。奥にはF一五<sup>分</sup>があった。滝の左岸ぞいのガケを登って捲く。ガケを登らなくとも左岸ぞいに踏み跡らしいものがあり捲道のようなものである。

この先小滝二つを越える。あとは林道までゴロ口歩きである。まだ水量も多かったが、時間の関係で、林道の「かみあまどばし」にて遡行を打ち切る。(記・……) (タイム)

天戸川・徳沢出合八・五五―かみあまどばし一四・四五

## 徳 沢

一九七九年六月十日

天戸川・徳沢出合八・五五―かみあまどばし一四・四五

### ◆天気(晴)

水沢部落まで車で送ってもらう。一五分程天戸川の堤を歩き、堤のきれた地点から遡行開始。水は結構暖かく、天候も上々。沢登りには好適である。

五分程で橋にぶつかる。地図で確認すると吾妻高原牧場に通ずる道路である。この道路は少し先で二つに分かれ、一本は天戸川沿いに続いている。遡行していると車

がすぐ上を通りすぎていく。少々気がめいる。

沢はほとんど傾斜もなく、滝もかからない。八時四八分、砂防ダムに出合う。左岸を高捲きするが、かなりのつり人が入っているらしく、はつきりした踏跡がついていた。一五分たらずでまた砂防ダム。これを越えて一〇分たらずですぐ次の砂防ダムである。本当に気がめいる。この辺まで来ると沢の水がにごっている。たまたま出合った中学生三人に話を聞くと、この上で砂防ダムの工事をしているという事である。

九時二〇分、徳沢出合。砂防工事はこちらで行われていた。徳沢に入ると単調なゴロが続く。一一時昼食。まだ単調なゴロである。一二時二三分に砂防ダムを捲いて、一三時に上天戸橋に到着。ここで遡行を打ち切る。(記・……)

### (タイム)

水沢七・五〇―天戸川出合八・一〇―徳沢出合九・四〇―上天戸橋一三・〇〇

### (追記)

徳沢名称について  
「徳沢」・「戸草川」・「木賊沢」など種々用いられているが、本誌では「徳沢」に統一した。